

2024年度 卒業式式辞

本日京都薬科大学を卒業される 330 名の学部の皆さんならびに博士の学位を修得される 12 名の皆さん、ご卒業ならびに学位取得誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。またご父母、ご関係の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。学部の皆さんは 6 年間の学びで薬学の基礎から臨床を修得され、大学院の課程修了あるいは課程によらずに原著論文を出された皆さんは、新たな学術の進展に寄与する研究を博士学位論文としてまとめられました。皆さんのこれまでの努力に敬意を表し、あらためてお祝い申し上げます。

本日、京都薬科大学の学士あるいは博士の学位を修得された皆さんには、病気あるいは病気になる可能性のある人を対象とする様々な役割が期待されています。病院あるいは薬局の臨床現場では、患者さんが必要とする薬の服薬管理はもちろんのこと、日々変化する症状や副作用のモニターを行い、より良い医療に貢献する役割が求められています。医療関連企業では、いまだ治療薬が開発されていない疾患に対する新しい薬のアイデアやシーズを治療薬に結びつける役割や、新薬の効果を客観的に評価する役割が求められます。また、新しい薬の有効性を学術的に検証することや行政面からの支援も重要な任務です。

京都薬科大学における学部あるいは大学院での学びは、このような多様な薬剤師の役割を果たすための基礎を作るためのものです。学部を修了された皆さんにとっては、国家試験に合格し薬剤師として様々な形で社会への貢献を始めると同時に、卒業後も新たな学術的知見に対応できる能力を自己研鑽するための基盤となるものです。博士の学位を修得された皆さんは、学位研究を通して獲得された能力を学術的にさらに昇華させ、広く世界に通用する教育・研究人材となってください。

これからの皆さんの活躍に際して、私から一つだけ述べさせていただきます。大学や大学院では非常に洗練された学習課程が準備され、系統的で効率の良い学びが提供されてきました。しかし、これから皆さんが向きあう現実の課題や学問上の問題は決して単純明快ではありません。約 60 年前にアメリカの科学哲学者トマス・クーンは「科学革命の構造」を著し「パラダイムシフト」という概念を提唱しました。パラダイムとは「一般に認められた科学的業績で、関連領域の研究者に対して一定の期間学問上の問い方や答え方のモデルを与えるもの」とされ、今日では広く人口に膾炙している概念です。通常の科学研究活動は、共有されているパラダイムを基盤として行われます。しかし、パラダイムそのものの変換が起こる時には科学上の世界観が大きく変わり、学問上の大きな摩擦が生じます。天動説から地動説への転換や古典力学から量子理論への変化などが典型例とされています。さらに、このような大きな概念の転換には 1 世代を超え

る時間が必要なことが多いとされています。もちろん科学の進展には世代ごとに果たすべきそれぞれの役割がありますが、多くの場合パラダイムの変換を担うのは若い世代なのです。それまでの概念になじんだ研究者の世代交代が必要なことが多いのです。翻って、最近の医療界での変化、例えば「物から人へ」あるいは「アナログからデジタルへ」といった薬剤師をめぐる環境の変化がパラダイムシフトといえる規模かどうかは議論の余地がありますが、少なくとも柔軟な発想の転換が必要な変化であることは確かです。皆さんがこれから社会で向き合う様々な事象は基本的にこのような変化に由来する課題なのです。皆さんのみずみずしい感覚と変化を見極めるために必要な柔軟な思考力がこれらの課題解決に必要な不可欠です。これまでの慣習にとらわれることなく、皆さん自身のやり方で薬にかかわる様々な課題の解決や新しい方法論の開拓に取り組んでください。京都薬科大学での学びがその基盤となるはずです。

我が国の人口構成の急激な変化と AI 技術の飛躍的進歩に伴い、皆さんが大学に入学された頃には予想もつかなかった新しい時代がすでに始まっています。医療界においても、今までとは桁が全く異なる膨大なデータとデジタル化に即した新しいスキルを継続的に習得する能力と医療に対する熱いハートを持った薬剤師が求められています。このような次世代の薬剤師を目指し卒業後も研鑽を続けてください。すぐ目の前の時代は皆さんが次のパラダイムを作り育てる時代です。皆さんの輝かしい未来を祈念して私の式辞とします。

本日は誠におめでとうございます。

令和7年3月15日
京都薬科大学 学長 赤路健一